

パニエの研究 ——市販パニエと試作パニエの比較検討——

A Research of Paniers —— A Comparison Between Paniers on the Market and Self-Made Paniers ——

大 信 田	静 子	富 田	玲 子	辻	美 恵 子
Shizuko	OSHIDA	Reiko	TOMITA	Mieko	TSUJI

I は じ め に

布を体に巻き付けることから始まったドレスは、時代とともにスタイルを変え、シルエットを変え、独創的なフォルムを意識的に作り出すことで生まれ変わってきている。それは、いつのときも時代と女性の存在そのものを主張してきた。これは、その時代のファッションとしてのみで終わるものではなく、生活に馴染むものは、今の日常にも生かされ、また機能性に欠くものについては、非日常的なところでのファッションとして取り入れる場合も多い。今日のように自己表現が多様化し、個性を主張する自由で且つ、活動的な着装を好む若者達が多いなかであっても、卒業時の作品制作にあたってはロココ調のロマンチックなドレスに憧れをもつ学生が多く、これは毎年繰り返されている。しかし、そのシルエットのドレスを創るにはファンデーションであるパニエの形づくりが重要である。同じ型のドレスであっても素材や模様や織り柄の有無、デザインによって、パニエの組み立て方が異なり、幾度かの試着補正を行うので、多くの製作時間を必要とする。制約された時間のなかで、パニエ製作にかかる時間の短縮化を考えていかなければならないと思う。それには、市販されているパニエを部分的に使用することも一つの方法と考えられる。そこで今回は、市販パニエのシルエット、製図、縫製上の特徴などを調査し、試作パニエとの比較検討を行ったので結果を報告する。

II 研 究 方 法

大手専門店から購入したパニエ3種類(市販パニエA, B, C)と試作したパニエ2種類(試作パニエD, E)について、パターンや縫製方法、使用材料、用尺など調査、検討した。また、市販パニエ、試作パニエに素材の異なるギャザー・フレアー・スカート2点(スカートA, B)を組み合わせ、シルエットの比較検討を試みた。スカートAはポリエステル100%、薄手ジャガード地、スカートBはポリエステル100%、中肉ジャガード地の膨れ織りである。

III 市販パニエの調査

(1) 市販パニエ A

スカート部分の素材はナイロンシャーで 20 m, ウエストには幅 3 cm, 長さ 65 cm のスーパーベルトゴムが用いられている。半径 145 cm, 丈 92 cm の全円 2 枚で構成されているギャザー・フレアーのパニエである (図 1)。総裾幅は 29 m 96 cm, 総ウエスト幅は 18 m 24 cm で, 中心部がバイアス裁ちの 8 枚接ぎである。用布は 250 cm 幅で 13 m 使用している。市販されているナイロンシャー 122 cm 幅で 26 m 必要である (図 2)。

縫製上の特徴は, 接ぎ目の縫い代は幅 1 cm でロックミシン処理で片倒し, 裾の始末は 5 mm の三つ折りで端ミシン処理, ウエストの部分は 3 cm 幅のゴムベルトを使用している。ゴムベルト部分に 1 cm 幅の綿テープのベルト通しが 5 カ所に縫い付けられ, 3 cm 幅で 135 cm の綿テープのベルトが付いている。ゴムベルトとスカートのウエストの縫い合わせ部分は綿テープを上のにせてミシンをかけ, ギャザーの厚みを処理している。突き合わせに留めるパニエ用の留め金がウエストのゴムベルトに使用され, ウエスト部分に厚みが加わらず, スッキリと処理されている。

(2) 市販パニエ B

土台は図 3 のように上から 18.5 cm, 29 cm, 54 cm 丈の 3 枚を縫い合わせたティアード・スカートで仕上げられている。1 段目は, ゴーズを横地に使用し 1/4 のウエストに対して 34.5 cm と約 2 倍のギャザー分をとり, 2 段目, 3 段目は, テトロン芯を使用している。ボリュームを出すため 1 段目と 2 段目の間, 2 段目と 3 段目の間にそれぞれギャザーを寄せた 70 D ナイロンチュールが付けられている。その上にウエストからゴーズ素材を使ったギャザー・スカートが 1 枚縫い付けている。

縫製上の特徴は, ウエスト部分でゴーズにギャザーを寄せ, テトロン芯は 1 cm の細かいタックを寄せ, 中表に縫いロックで始末している。各段の間にギャザーを寄せた 70 D

図 1 市販パニエ A 製図

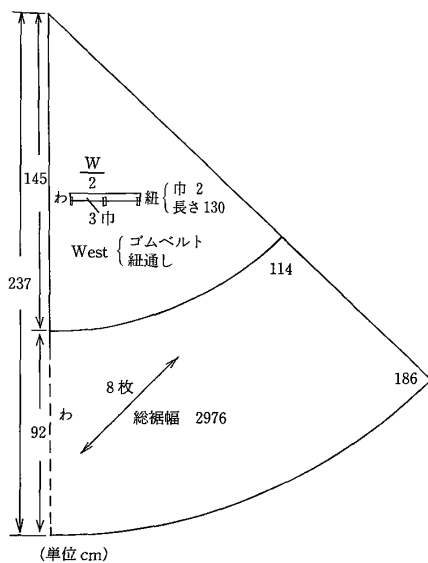


図 2 市販パニエ A マーキング

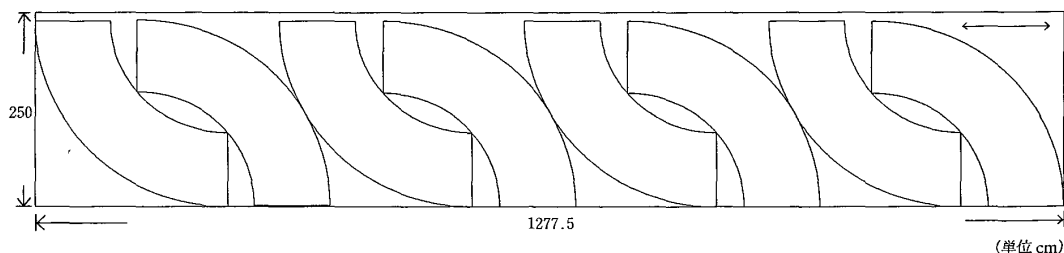
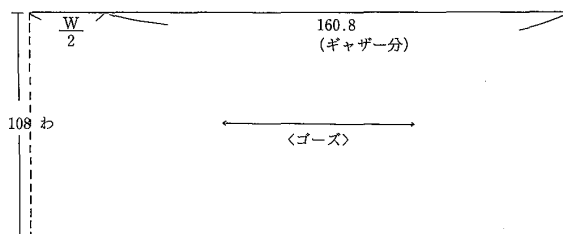
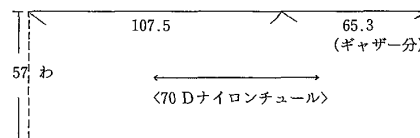
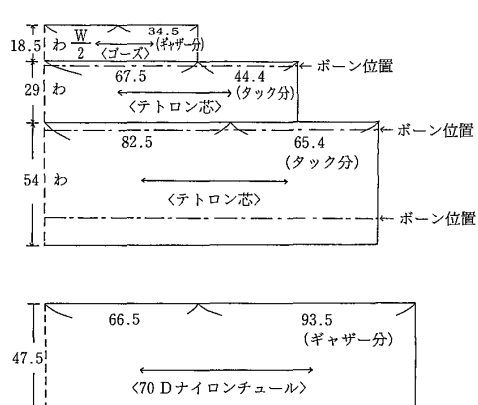


図3 市販パニエB (土台)



(単位 cm)

図5 市販パニエC

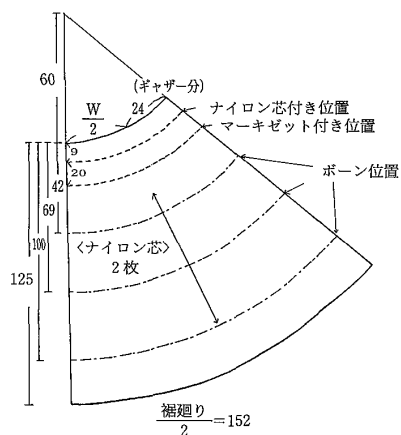


図4 70 D чулの付け方

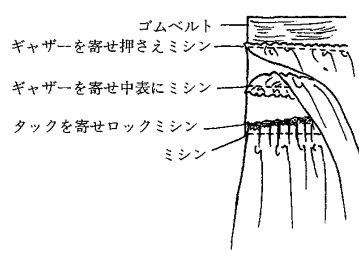
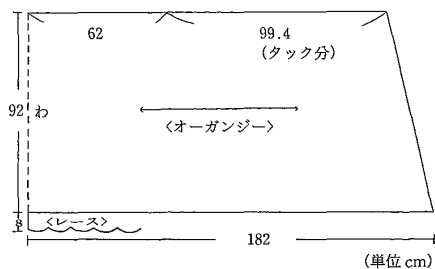
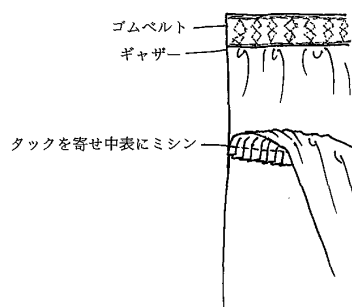
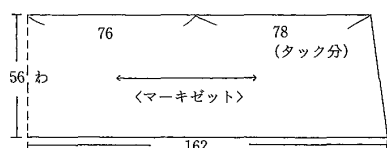


図6 マーキゼットの付け方



(単位 cm)

ナイロンチュールを中表に縫い返している(図4)。その上に縫い付けられているゴーズ素材は、ウエスト 66 cm に対して約4倍のギャザーを寄せ、ベルトと中表に縫い返し、上から1 cm 下がった位置で押さえミシンをかけ、形を整えている。ゴムベルトはマジックテープで留められている。また、膨らみを必要とする場合、土台には3カ所のボーンが入るように仕上げてある。ボーンを通す部分は、オーガンジーを2.5 cm 幅の二つ折にしロックミシンをかけ、押さえミシンで縫い付けている。今回はボーンを入れ比較している。

(3) 市販パニエC

図5のように2枚はぎのギャザー・フレアー・スカートからなり、1/4のウエストに対して24 cm のギャザー分量をとったナイロン芯を使用している。裾回り1/4に対して125 cm と広めの土台である。土台の広がりを保つためにウエストから42 cm, 69 cm, 1 m の位置にそれぞれ焼き入りリボンに白でコーティングしたボーンが入っている。膨らみを出すためにウエストから20 cm 下がった位置にタックを寄せたマーキーゼットが付けられ、ウエストから9 cm 下がった位置にはタックを寄せた厚手ナイロンシャーで覆っている。

縫製上の特徴は、ナイロン芯を使った土台を2枚 中表に縫い合わせ、縫い代は巻ロックで処理している。ウエストも巻きロックをかけ、ゴムベルトを上から押さえ、ミシンで留めている。留め金はパニエ用を使い2段階にウエスト調整ができる。マーキーゼットは2 cm 幅のタックを均等に取り、一度ミシンで押さえしてから中表に縫い返す方法で、縫い代はすべて断ち切りのままである(図6)。後ろの空きの部分は膨らみを持たせるために重なっているが、タックの分量は均等ではない。オーガンジーの裾に8 cm 幅のレースが付いた、お洒落なパニエである。

IV パニエの試作

(1) 試作パニエD

土台布として中肉キャンバス地 79-A を使用。土台は6段のティード状にし、チュールを用いてシルエットを形造った。土台の4段目、5段目、6段目には70 D ナイロンチュール115 cm 幅を20 m, 3段目には50 D ナイロンチュール115 cm 幅を8 m, 1段目、2段目には50 D ナイロンチュールを115 cm 幅で8 m 用いている。

土台布には程良い厚みがあることと帯電性の比較的小さい、綿の

図7 試作パニエD 製図

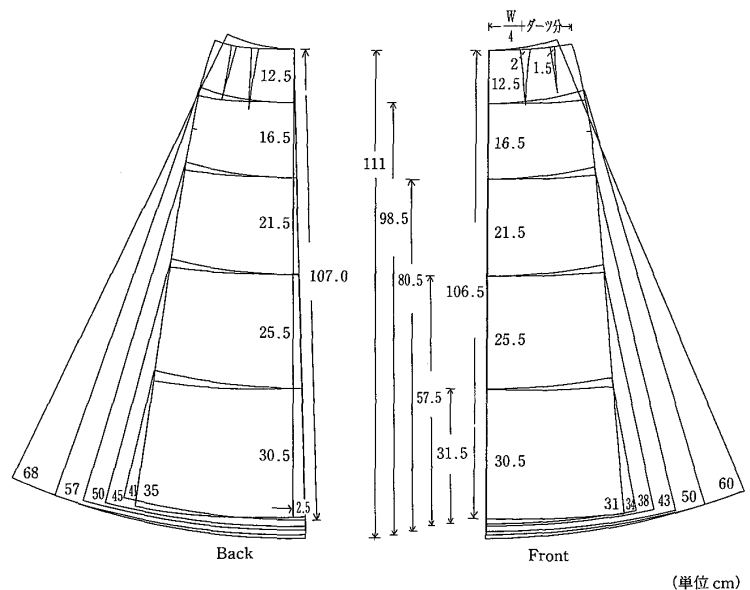
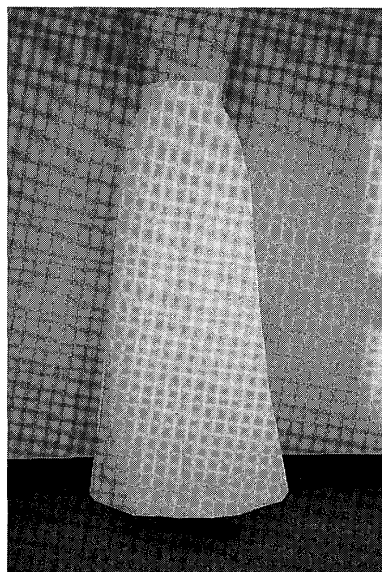
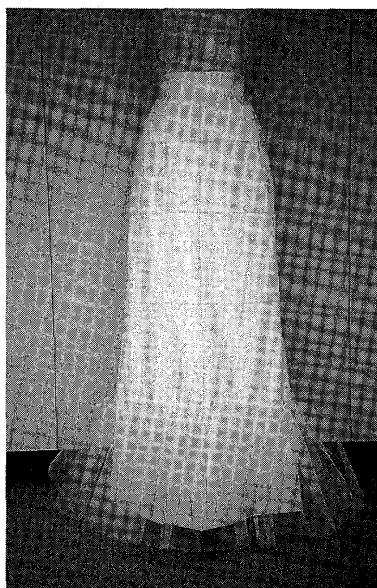
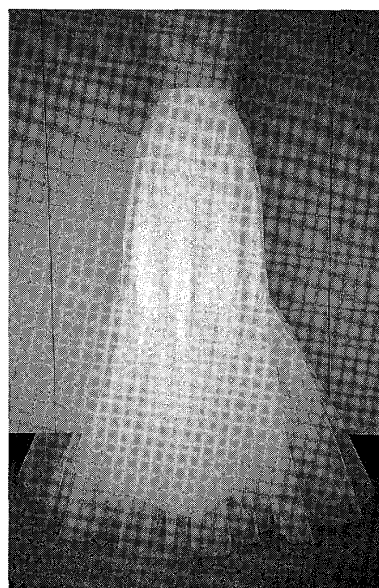
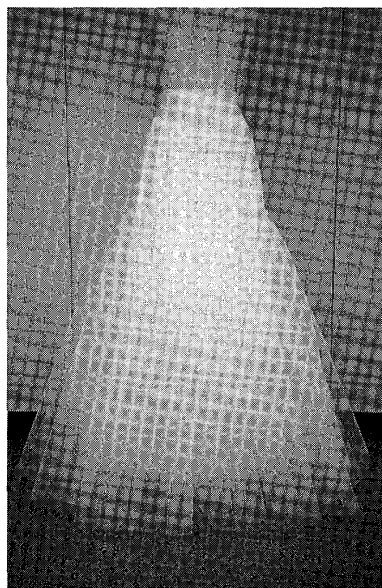
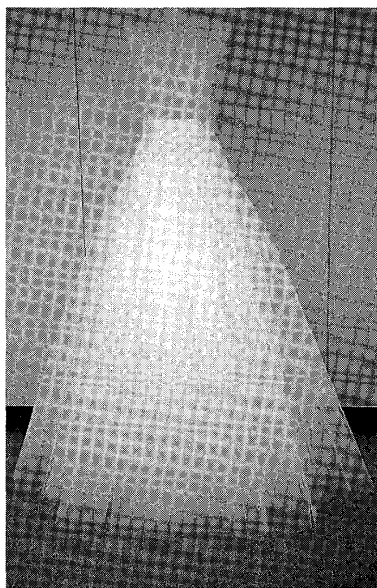
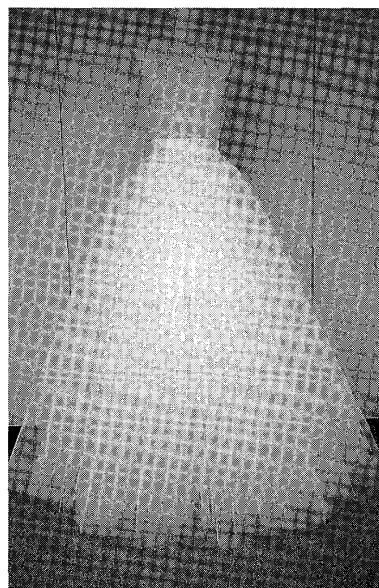


写真1 試作パニエD 土台

写真2 試作パニエD 1段目
チュール写真3 試作パニエD 2段目
チュール写真4 試作パニエD 3段目
チュール写真5 試作パニエD 4段目
チュール写真6 試作パニエD 5段目
チュール

キャンバス地を用いた。歩行による動きでパニエのシルエットが崩れないように、土台の裾幅はやや狭く、セミタイトスカート形状である(写真1)。ギャザーを寄せてパニエの形を造るチュールは、表スカートのシルエットからみて、サーキュラーから描いた台形型にした(図7)。下段部分はハードチュールを用いて型作り、上段部分はドレスの質感を考慮に入れ、ソフトチュールを用いた。着装したときのシルエットのイメージから、1段目～6段目に付けているチュールの分量は、前スカート部分は土台の付け線寸法の3倍、後ろスカート部分は土台の付け線寸法の4倍にして縫い付けた(写真2, 3, 4, 5, 6)。

写真7 試作パニエD Front



写真8 試作パニエD Side



写真9 試作パニエD Back



縫製上の特徴は、セミタイトスカート状の土台の上に、サーキュラー状のチュールをつけた。スカート部分の布の重さに耐えさせるため、ウエストには5 cm 幅のスーパーベルトゴムを使用している。

以上の製作過程を経て試作したものが、写真7, 8, 9である。

(2) 試作パニエE

素材は、吸湿性、保温性にとみ、肌ざわりが良い白地綿ブロードを6 m 使用した。フープの代用として焼き入りリボン (1 cm 幅×5 m) 4 本、裏側には綿テープ (2.5 cm 幅) を21 m 用いている。

図8は、円錐を基本形とした製図である。ウエスト寸法62 cm, 総丈108 cm, 裾まわり直径100 cm, 段数8段として、1段ごとのティアード丈, 直径, 円周を割り出している。

$$\text{計算式} \quad Y_i = \frac{27 + 13.5(i-1)}{2.7}$$

図8 試作パニエE 製図1

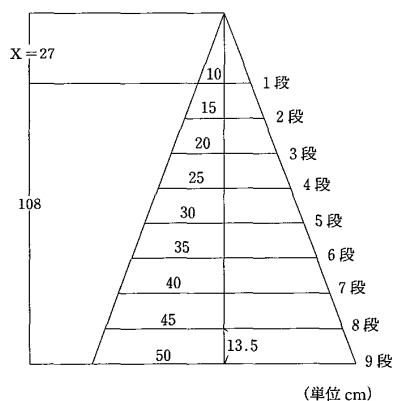
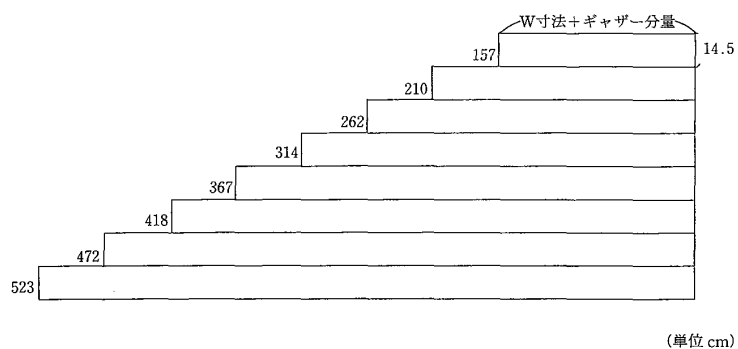


図9 試作パニエE 製図2



ティアード丈は、切り替え線にギャザーを寄せ、焼き入りリボン (1 cm 幅) を通すことで、出来上がり総丈は 10 cm ほど縮まることから、1 cm 長い 14.5 cm としている。またギャザー分量は、それぞれ 8 段とも円周の $\frac{2}{3}$ としている (図 9)。

裁断は、地の目どおりに布地を裂く方法をとった。また表スカートのシルエットが崩れないように、パーツは全て横地で裁断し、後ろ中央のみに接ぎ目を入れている。

縫製上の特徴は、ギャザーを落ち着かせるために落としミシンをかけ、裏側には綿テープを利用して 2 cm 幅のステッチをかけ、間に焼き入りリボンを通すようにした。リボンのつなぎ目は金属用超強力両面テープを使用した。ウエストは、5 cm 幅のスーパーベルトゴムを使用して

いる。

以上の製作過程を経て試作したものが、写真 10, 11, 12 である。

V 結果および考察

1. 市販パニエ

市販パニエ A (写真 13)、市販パニエ B (写真 14)、市販パニエ C (写真 15) の調査、検討の結果、次のようなことがあげられる。

市販パニエ A は、サーキュラー状のパターンを使用しているため、静止時は円錐形のシルエットが保てる。透明感のある、軽量のナイロンシャーを使用しているため、視覚の点からも軽く、柔らかな表情がでる。同型のサーキュラー状のパターンを 8 枚使用しているため、そのパターンのまま、容易に縫製ができる、などのメリット面があげられる。デメリット面としては、多量の布を必要とする。ウエストのギャザー分量が多いため、ウエストのゴムベルトとの縫製に技術が必要である。裾幅が多いため、縫い代の処理が容易ではない。多量の布を使用するのでスカート部分が重くなり、ゴムベルトのウエスト部分が安定しないので、伸縮性のない、別

写真 10 試作パニエ E Front

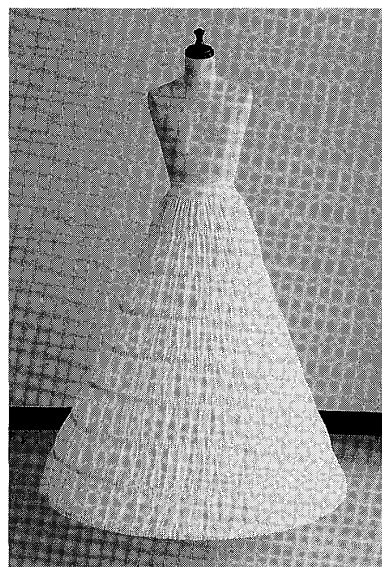


写真 11 試作パニエ E Side

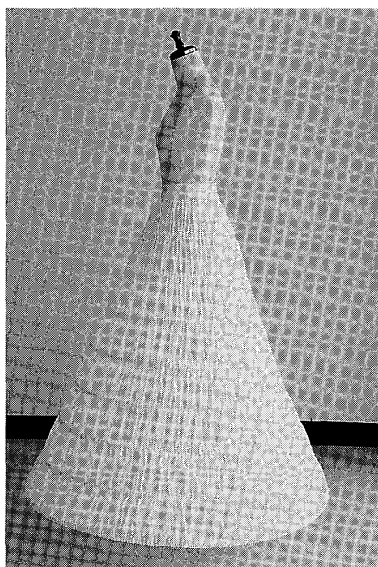
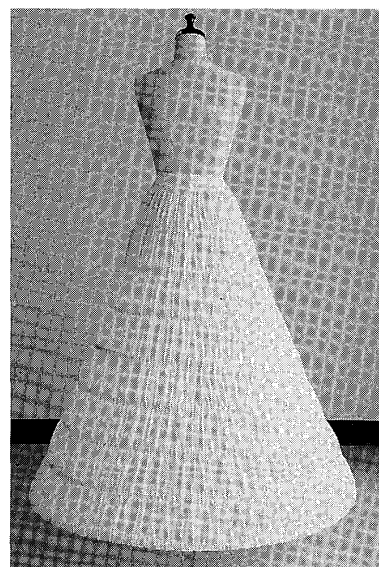


写真 12 試作パニエ E Back



布のベルトを付けてウエストを固定している。同型のサーキュラー状パターンを使用して8枚のパーツを縫い合わせているため、前、後、側面からのシルエットが同じである。ライニングとなるべき土台部分のスカートがないために、裾の凹凸の表情が一定にならない。

市販パニエBは、土台を広めにしてボリュームを先に出すことで、用尺は少なくてすむ。収納はボーンを抜きコンパクトに折り込むことができ、着用時は手で払うように空気を入れることで、膨らみを取り戻すというメリット面があげられる。デメリット面としては、土台がティアド・スカートのため円周率が広くなり、中へ入り込む。5 mm 幅のボーンに対してボーン通し部分は2.5 cm と広く、振れるため歩行に影響がでるようである。

市販パニエCの場合は、ギャザー・フレアーにボーンを通したクリノリンタイプで歩行は楽であり、ドレスの形は保たれている。ボーンとして使用されている焼き入りリボン、非常に弾力性に富み、収納しやすいというメリット面があげられる。デメリット面としては、素材が薄く、ボーンが透けて見えることと、オーガンジーが途中から付けられているためウエスト部分は引っ込んで見える。

以上のことから、市販パニエについては、布地の経済性および縫製の簡略化から膨らみを持たせるために、張りのある素材が使われていると思われる、シルエットの崩れ、表地の質感が損なわれている。

2. 試作パニエ

試作パニエDは、セミタイト上の土台布にシルエットを形造るチュールを付けているためパニエのシルエットが固定できる。前、後、側面のそれぞれの表現ができる。チュールは断ち切りとしたため、脇線、裾の始末は必要としない。デメリット面としては多量の布を使用する。出来上がりの形をイメージし、1段ごとにシルエットのチェックをしながら製作する必要がある。パターン通りにつくるといっても、感性を必要とする部分が多い。スカート部分が重い。

写真 13 市販パニエA



写真 14 市販パニエB

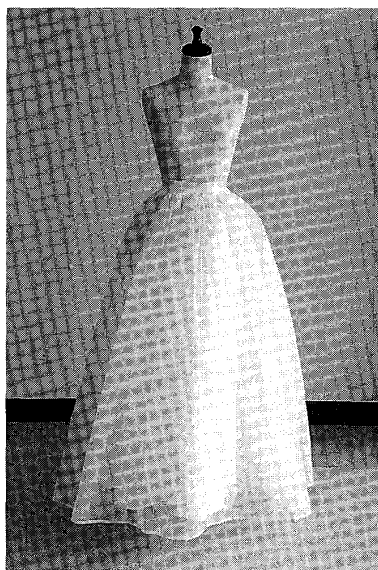


写真 15 市販パニエC



写真 16 試作パニエ E をたたんだ状態

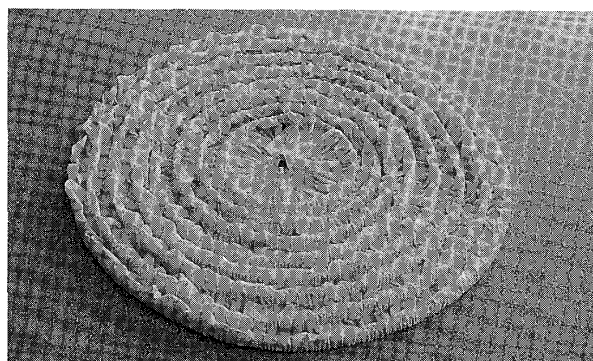


写真 20 試作パニエ E オーバー・スカート

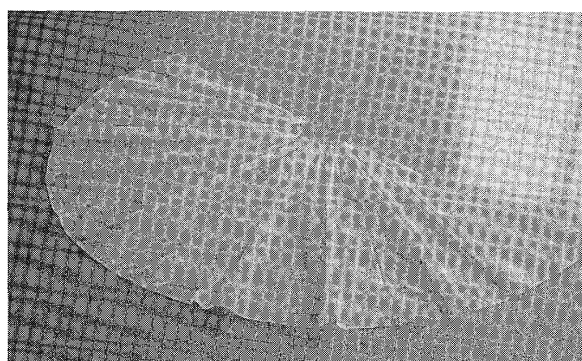


写真 17 試作パニエ E オーバー・スカート着用 Front

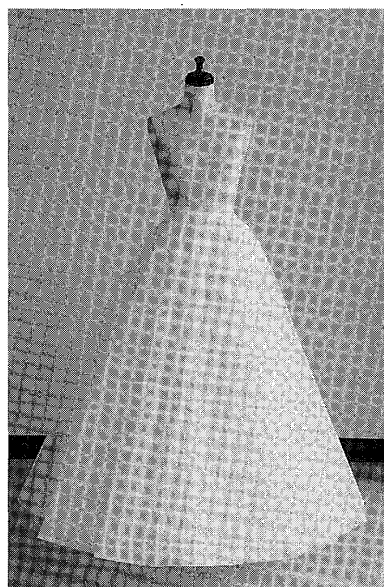


写真 18 試作パニエ E オーバー・スカート着用 Back

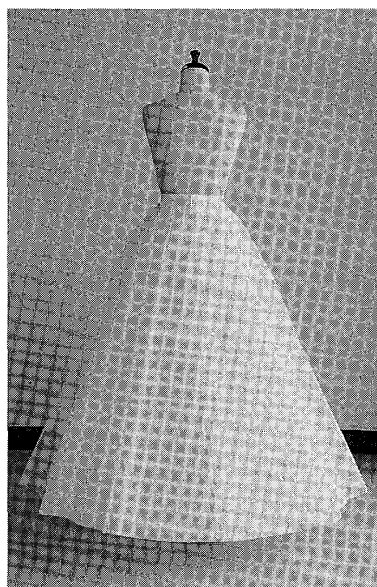
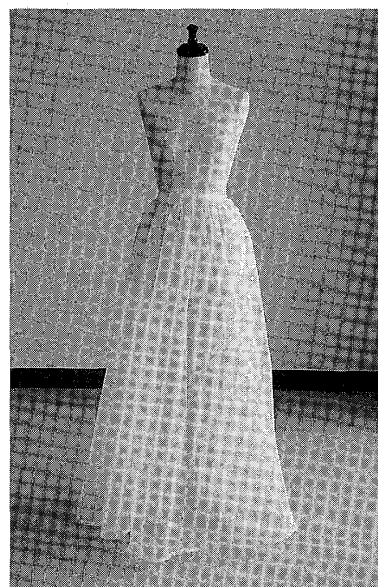


写真 19 試作パニエ E オーバー・スカート



かさ張るため、持ち運びや保管に不便である。試作パニエ E は、計算式から割り出される寸法から製図を引くことで、シルエットは、ある程度固定されるため、数度にわたる仮縫いは必要ないように考えられる。また、ティアード部分にギャザーを入れているため、薄手素材のスカートでも表に響かない。地の目どおりに布地を裂く方法を取ることで、ほつれにくく作業もしやすく時間の短縮化がはかれた。また、写真 16 のように、畳んで収納することが可能であり、持ち運びが非常に便利であることがメリット面としてあげられる。これに表スカートを組み合わせた結果、ギャザーを寄せながら焼き入りリボンを通したことで表スカート地の質感を損なわず、図 8 の製図と同様のシルエットを表現することができたが、一方では、パニエの焼き入りリボンが透けるという問題点があげられた。これは、写真 17, 18 のように表布にひびかない薄手で張りのあるゴーズ素材のオーバースカートを組み合わせることで解消された。

このシルエットは、ウエストにギャザーを入れたサーキュラーを基本としたラップ・アラウンド・スカートである(写真 19, 20)。用尺は 5.6 m 使用した。ギャザー分量はウエスト寸法の

写真 21 市販パニエ A (スカート A)



写真 23 市販パニエ B (スカート A)



写真 25 市販パニエ C (スカート A)



写真 22 市販パニエ A (スカート B)



写真 24 市販パニエ B (スカート B)



写真 26 市販パニエ C (スカート B)



2.5 倍，総丈 109 cm，裾幅は 4 m の製図である。

3. スカート着装時

市販パニエ A (写真 21, 22) にスカート A を組み合わせた場合は，ウエスト部分のギャザーが一定している。スカート B を組み合わせた場合は，裾の凹凸部分が大きく，表情がある。スカート A，スカート B 共，スカート地の質感は生きている。スカートの重みで，パニエがつぶれ，裾回りが狭くなる。パニエの裾の凹凸部分に，スカートのフレアの凹部分が入り込む。

市販パニエ B (写真 23, 24) は，土台に広がりがあるので，膨らみは保てる。しかし，スカー

写真 27 試作パニエ D (スカート A)



写真 29 試作パニエ E + オーバー・スカート (スカート A)



写真 28 試作パニエ D (スカート B)



写真 30 試作パニエ E + オーバー・スカート (スカート B)



トA, B共ウエスト部分のギャザーのボリュームとボーンによる振れからできる凹凸が表にはっきりと表われている。スカートAはスカートBよりもギャザー・スカートの質感が損なわれている。

市販パニエC(写真25, 26)も同様に、広がりはあるが、ボーンの入った安定した形であるため、スカートAは土台の形がそのまま表にひびいている。スカートBは厚地であるために表地の質感は損なわれていない。しかし、ウエストからヒップまでのボリュームが不足しているため、スカートA, Bともヒップラインから膨らみのある形になっている。

試作パニエD(写真27, 28)は、スカートA, スカートB共、パニエの形が固定しているため、一定のシルエットを保っている。スカートA, B共スカート地の質感は損なわれていない。

試作パニエE(写真29, 30)は、試作パニエDと同様にパニエの形が固定しているためスカートA, スカートB共一定のシルエットを保っている。スカートA, スカートB共スカート地の質感は損なわれていない。

4. オーバー・スカート着装時

市販パニエAは、フレアーの凹凸部分がギャザー・スカートのシルエットを崩している。オーバー・スカートを組み合わせることで多少、緩和された(写真31, 32, 33)。

市販パニエBは、5mm幅のボーンに対して、通し幅が2.5cmと広いため、ボーンが中で振れ、その形が表に影響されていた。これに、オーバー・スカートを組み合わせることで多少、緩和された(写真34, 35, 36)。

市販パニエCは、ウエストとヒップとの差が大きい市販パニエCにオーバー・スカートを組み合わせることで、ウエストにボリュームを出すことができたことと、厚手ナイロン芯によるシルエットの崩れはある程度、緩和された(写真37, 38, 39)。

写真31 市販パニエA+オーバー・スカート

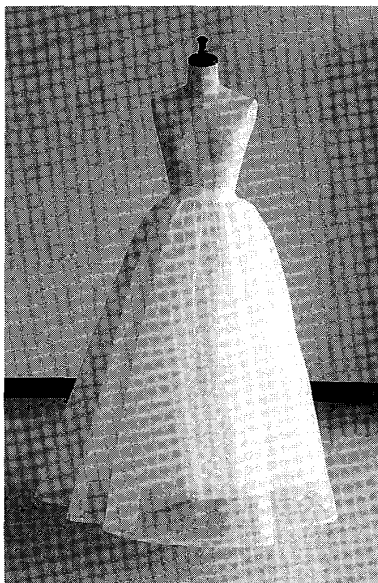


写真32 市販パニエA+オーバー・スカート(スカートA)

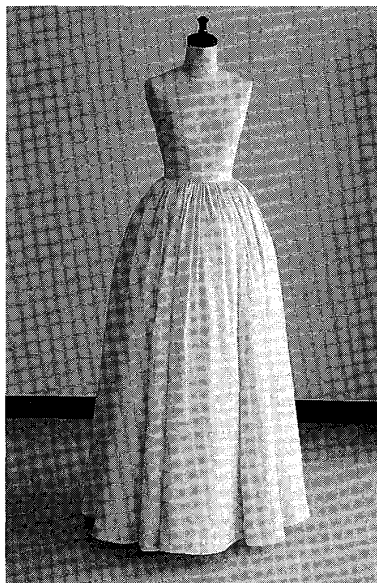


写真33 市販パニエA+オーバー・スカート(スカートB)

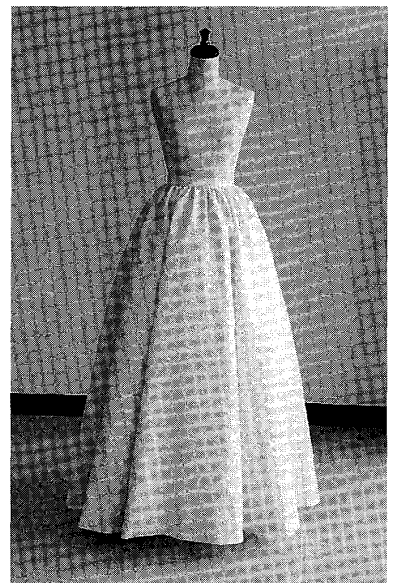


写真 34 市販パニエ B + オーバー・スカート

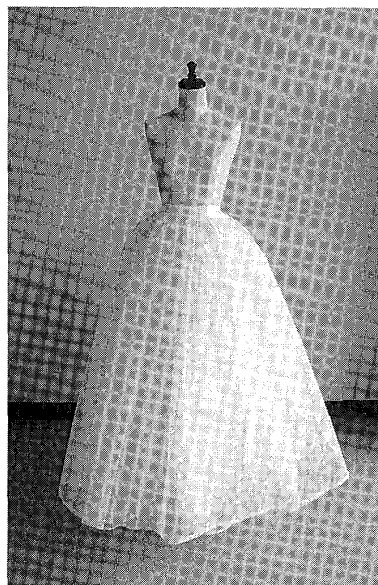


写真 35 市販パニエ B + オーバー・スカート (スカート A)



写真 36 市販パニエ B + オーバー・スカート (スカート B)



写真 37 市販パニエ C + オーバー・スカート

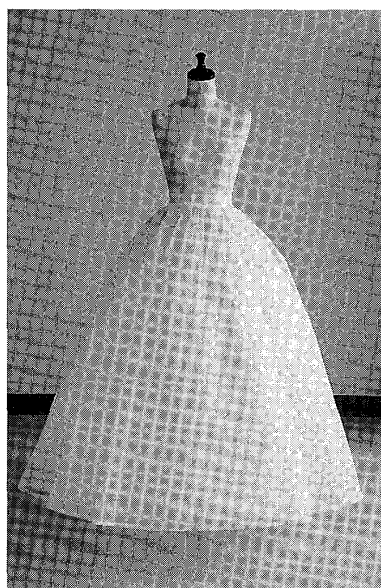


写真 38 市販パニエ C + オーバー・スカート (スカート A)



写真 39 市販パニエ C + オーバー・スカート (スカート B)



VI お わ り に

市販パニエ 3 点の調査と試作パニエ 2 点についての比較検討を行った。結果は、以下のとおりである。

市販パニエを購入する場合、ドレスのシルエットに近いパターンを選ぶことが大切であり、ドレスの質感を損なわない素材選びが重要である。パターンの特徴としては、一般的にサーキュラー形状とティアード形状の 2 つに分けられる。ウエストサイズは、ゴムベルトや紐、マジッ

クテープの長さ、2 段式の留め金などにより調整は可能である。市販パニエ A は裾の凹凸の表情は一定にならないが、表地の質感は損なわれない。市販パニエ B, C については、土台のシルエットが表にでるため表地の質感が損なわれる。しかし、重量感のある素材には、ある程度対応できる。市販パニエ活用の場合、製作したドレスのシルエットに合わせて縫い直しも必要であるが、今回製作したオーバー・スカートを市販パニエに組み合わせることによってある程度のシルエットの崩れをカバーすることができる。また、パニエの製作にかかる時間については、短縮される。

試作パニエ D は、出来上がりのシルエットを想定して製作しているため、形が固定され美しく表現できたが、チュールの分量を製作過程の中で確認しながら取り組んでいくことに多くの時間を費やした。試作パニエ E については、計算式で割り出される寸法から製図を引くことによりシルエットはある程度固定され、数度にわたる仮縫いは必要ないように考えられる。地の目どおりに布を裂く方法を取ることで時間の短縮化が図れた。また収納、持ち運びが非常に容易である。材料費についても市販のパニエを購入するより、安価に製作できた。

今回は、パニエ 5 点の比較検討に留めているが、今後は着装感の調査やシルエットを損なわない着やすさ、製作時間の短縮化、縫製の簡略化および経済性も含めて研究を進めていきたいと考えている。

参 考 文 献

- 1) 青木英夫：下着の流行史，雄山閣出版株式会社，1991.4
- 2) 大沼淳：日本洋装下着の歴史，文化出版局，1987.6
- 3) 塚本和子，小松正子：クリンリン・ドレスの複製とその技術的考察，文化女子大学研究紀要第 15 号，1984
- 4) 小松正子，塚本和子：クリンリン・ドレスのパターンと縫製法について，文化女子大学研究紀要第 19 集，1988
- 5) 石山彰：下着とは何か？，文化女子大学ファッション情報科学研究所，ファッション研究誌 SOEN-EYE NO 28，1997
- 6) 中野秀美：19 世紀～20 世紀始めの下着の仕組み，文化女子大学ファッション情報科学研究所，ファッション研究誌 SOEN-EYE NO 28，1997
- 7) 女性の下着の歴史：セシル・サンローラン，Edition Wacoal，1989.12
- 8) 手作りウェディングドレス&グッズ：関根節子，鈴木恵美，文化出版局，1995.10
- 9) ウェディングドレスの作り方：笹原紀代，文化服装学院出版局，1961.8